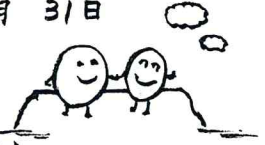


例えば 脚をぶらりとして坐って、誰かと流れ行く雲を
ぼんやり眺めながら「あ、馬が走ってる!」とか「ソフトクリーム」
なんてつぶやき合っているときは、何ともゆったりとした心静かな時間です。



「フェイス」は顔、「ショルダー」は肩、「リレーション」は関係……ずいぶん昔、大学病院の
小児科で子どもたちと過ごしていた頃に、「フェイス トゥーフェイス リレーション」と「ショルダー トゥー
ショルダー リレーション」という言葉を教えてもらいました。前者は「顔と顔の向き合い関係」
で、お互い顔を向き合いやりとりをする関係です。それに対して、後者は肩を並べて同じ
方向を向いて何かを見たり感じ合っている関係といったらいいでしょうか。見つめ合う仲良し
も悪くありませんが、肩と肩の仲良しはどこかのどこかで安心感が漂っている気がします。

自閉の傾向が強い子は 真正面から強く投げかけられるといたたまれなくなることもある
ようです。確かにそうかもしれませんが、そもそも私たちは程度の差こそあれ、自閉的にならざるを
得ない時があるはずですから、社会の中で少なからず頑張っている私たちは、「共にある」
横の関係で ほわっと過ごす時間を求めているのだと思います。

スクール形式という会場作りがあるように、学校文化の典型がフェイス トゥーフェイスのある意味
緊張関係にあるというのは、どこか不思議な気がします。切磋琢磨の気持ちも、周り
からのきかけこそあれ、本来は子どもの内の思いから始まるのでしょうか、今を生き、過去を学び、
新しい時代をつくり出そうと共に意志する先生と子どもとの間には、同時代の仲間としての
寄り添い、肩を並べる関係が生きているのだと思います。

外から見ると 顔と顔を向き合う場面の中においてさえも、お互いの息づかいや、目指し
の熱さ、時にはつまづきやどうは様もない今であっても、それを受けとめ合えるような、
内なる「shoulder to shoulder relation」が大切にされたいなと
思います。

子どもが過ごす幼稚園や学校の中でそんな思いが求め続けられとするなら、少なからず
そこから未来の文化や時代を形作っていく力が生まれるはずで、

もうすぐ「発表会」です。年度もふた月を残すところとなりました。

子どもたちが心や身体の奥深くで求めているものに耳傾け、少しでも自分の内なることとして
生活をつむいでいくこと…それが大人としての「大きくなった発表会」であり、「卒園」「進級」に向け
ての日々なのだと思っています。

そういえば、卒園 進級の日に夢窓では長い間 子どもたちに記念品として、フレールが考案した
思物積木を届けてきました。「各ご家庭で遊んでくれているのかな?」、「別のものにはよう
かな?」とも考えましたが、もう一度自分のこととして考えなおし、子どもたちに手渡す日まで
できるだけ毎日箱から出して遊んでみることに決めました。

例えば そんな小さなひとつひとつのことでも、肩と肩の関係の寄り添いの文化につながり
たいと願っています。 …… 自分のごとして、 できる限りのことを ……